



水のあれこれ体験会 2017 宮ヶ瀬ダム周辺施設を訪ね

県内のダム湖はどうなっているの？

特集

概要

全水道神奈川県支部及び一般財団法人横浜水道会館は、7月22日（土）に「県内のダム湖はどうなっているの？」をテーマに、宮ヶ瀬ダムの見学会を開催しました。配布予定のしおりを忘れていたり、予定していた遊覧船が濁水で運行中止になったりなどのアクシデントもありましたが、天候にも恵まれて盛況のうちに終了しました。

参加者はタウンニュースで公募した一般の県民市民42名でしたが、受付開始から10分で満員という、これまでにない人気ぶりです。水源への関心の高さを感じさせました。

海老名に集合し、貸切バスでダム下流のあいかわ公園へ移動。バス内では、宮ヶ瀬ダムの概要や神奈川の水事情を説明。厳しい濁水で遊覧船が運休になったことなどを伝えました。

あいかわ公園からダム下まではロードトレインに乗車。ダムを背景に記念撮影ののち、ダム堤体内のエレベーターでダム上に昇りました。外は猛暑にもかかわらず、堤体内はダム底層の冷水のために18℃前後に保たれ、寒がる参加者もいるほどでした。

ダム上の水とエネルギー館では、館長からダムの役割や宮ヶ瀬の歴史について説明を受けました。遊

覧船が運休になったことにも触れられ、これまでにない濁水だが、直ちに給水制限等になる状況ではないとのことでした。ここからは湖面が一望できませんが、明らかに下がった湖面や露出した山肌に、参加者からも運休仕方なしとの声が聞かれました。

ここまでは見学や学習で、この後は水の郷地区に移動して昼食および自由時間としました。広場や吊り橋なども名所なのですが、猛暑のためか日陰を中心に散策される方がほとんどでした。帰り道には、休憩を兼ねてオギノパンの本社工場に立ち寄りしました。すでに当日の生産は終了しており、パン作りの様子は見られませんが、社長自らがバスを誘導してくださり、様々なパンに加え、地元の野菜なども売られていて、にぎやかな雰囲気の中で買い物を楽しみました。

今回は昨年の経験からいくつかの点を改善したり、新たな試みを加えたりしましたが、まだまだ改善点はありそうです。人気イベントとして定着しつつある水のあれこれ体験会、さらに良い形にしていきたいと思えます。



水とエネルギー館の説明



ダム上から宮ヶ瀬湖を眺めて